名古屋ハリストス正教会

# なごや「聖歌」だより 1月号 '11

## セルビア聖歌ー小鳥はみな自分の歌を持つ

11月なかばにセルビアとギリシアの教会を訪ねました。セルビアは東西ローマの境目にあり、東西教会のせめぎ合いの場であり、また400年にわたるトルコ支配、オーストリア、ハンガリーによる占領など始終戦火に見舞われた国ですが、さまざまな文化の融合した面白さがあります。

ベオグラードから車で3時間、セルビア南部の山間にあるストゥデニツァ修道院はセルビア随一の聖人聖サワゆかりの聖地です。啓蒙所をとおり、聖所に入り振り返ると西側の壁いっぱいに十字架のフレスコが描かれています。聖所にはセルビア正教を立てた王族であり、のちに修道士となった聖シメオン、聖アナスタシア、聖ステファンの棺があります。

朝早く聖堂に入っていくと、修道士がひとり啓蒙所で夜半課を読んでいました。夜半課が終わると聖所を隔てる幕が開き、聖堂内へと促され、早課が始まります。修道士3-4人が単音の聖歌を歌っていました。技術的にはあまり上手ではありませんでしたが、シンプルな単音聖歌が古い石造りの聖堂に柔らかく反響し、心地よく祈りが進んでゆきます。ビザンティン・チャントにも似ていますが、音階は西洋音楽に近く、優しげでした。

これがセルビアで一般的に歌われている聖歌で、19世紀の初めにドナウ川流域で歌われていたカルロヴァチ聖歌をモクラニャチという音楽家が8調の全てを西洋音楽の譜面に書き起こしたものです。モクラニャッチの聖歌は、一声でも、二声でも、4声でも歌えるように編曲されているそうで、この修道院でもところどころ、バスの副旋律をつけて歌っていました。

最近では、ビザンティン聖歌に戻ろうという運動も盛んで、セルビア語でビザンティン聖歌を歌っている教会もありました。しかし、不思議なことに、同じ歌でも違う雰囲気に聞こえました。言語の違いと、日頃慣れ親しんでいる音楽の影響だろうと思います。ギリシア聖歌の音階は1オクターブを72分割して構成されており、西洋音楽の平均律に慣れた耳にはなかなか馴染みにくいのですが、セルビアのものは私たちの耳にも聞き取りやすい音階に変化していました。

セルビアには「小鳥はみな自分の歌を持つ」ということわざがあるそうです。長年聖歌に携わってきた初老のウラディミル氏に日本の小鳥も日本の聖歌を育てなさいと励まされました。

ストゥデニツァ修道院の生神女進堂聖堂（11世紀末建立）とフレスコ。青が印象的。ユネスコ世界遺産。

## 聖歌練習

**♪名古屋：1月9日代式後、**

堂祭、神現祭の練習を行います。お正月をはさんで、この日しかありません。よろしくお願いします。

また、主日朝、9時15分頃から声出しウォーミングアップをしています。どなたもご参加できます。

**♪半田： 1月5日11:45から（神現祭）**

1月の指揮当番　2日マリア松島、16日エレナ広石、23日ピーメン松島、30日エレナ広石

## ズナメニイ研究会と練習会

**1月16日1:30から。**

クリュキー（記号）の復習をしながら、ズナメニイの記譜、音楽付けの特徴を学んでいます。テキストは2002年にリガの旧儀式派教会から出版されたズナメニイの教科書です。

降誕祭晩堂大課で、ズナメニイのスティヒラを歌い、静かな単音の美しさを体験していただきました。ズナメニイでは「ことば」がより浮き立って聞こえるようです。ロシアでも近年各所でズナメニイが注目され、実践されていますが、単なる懐古趣味ではなく、正教聖歌の大原則への道がそこにあるからです。

日本の状況に合わせて適宜省略、解説を加えてあります。

## ７．八調のシステム

どこの国の正教会でも、聖歌の順番やスタイルは八調(ὀκτώηχος;осмогласіе)というシステムに従っています。ロシア教会はコンスタンティノープルのギリシャ教会から礼拝の音楽構成の原則として八調のシステムを継承しました。八調は東方正教会に限らずローマ・カトリック教会や正教会以外の東方教会にも存在します。八調とは、８つの音楽的な旋法（モード）または調子（希 ἦχοι; 露 гласы; 羅 toni）で、伝統的聖歌ではすべてのメロディがこれに属しています。譜面で書かれていない場合も、あるいは音楽的な記号がついていなくても、祈祷書には必ず歌うべき調（エコス、グラス）が表示されます。祈祷書がギリシア語からスラブ語に翻訳されたときにも、調の表示はそのまま受け継がれました。

正教会の礼拝上の１年は週ごとに８つの調のひとつずつ順番にあてはめられます。一つの調は土曜日の晩課から始まり、次の土曜日の９時課まで同じ調が適用されます。これを繰り返すと８週を一巡りとする調の周期、すなわち調の表柱（гласовой столп）ができあがります。この表柱は五旬祭後の第２主日に始まり大斎の直前の土曜日の晩課で終わります。ただし日曜日の周期は大斎中の第５主日まで続くので奉神礼上の１年には、だいたい６個の表柱があるといえます。これらは『八調経』という祈祷書に納められています。

大祭の日はこの周期が中断されます。祭日の祈祷は『月課経』（またはその省略版である『祭日経』）に従い、ひとつの祈祷の中で様々な調が組み合わされて歌われます。その週が何調の週であっても、祭日経の調の指示に従います。

八調各調の聖歌の詞（テキスト）はその調に固有のものです。もともと詩と調のメロディは一体のものでしたが、後代になってメロディは八調の原則外で作曲されることもありました。そういう場合、調の指定はテキストのみに適用され、音楽にはあてはまらないことになります。例えば16～17世紀のロシアでは真福詞のスティヒラは週の調とは無関係なディメストベニー形式で歌われていました。ただし、無関係なメロディ歌うにしても、調の記載を見て祈祷書からスティヒラのテキストを見つける必要がありました。

中には調の表示がない歌もあります。聖体礼儀や晩課の常に変わらない歌（通常部聖歌）、例えば「聖にして福たる」「爾の独生子」「ヘルビムの歌」などで、これらは調のシステムの外にあるため、好みの調で歌われたり、調とは全く無関係に自由に作曲されたメロディで歌われています。

ギリシア教会の聖歌本は五線譜でなくネウマ記号を用いて書かれますが、どんな歌にも必ず調の表示があり、前述したような常に変化しない歌にも調の表示があります。ギリシアの。ビザンティン聖歌は調によって音程の構造が異なるので、調の指示なしには歌えません。西洋音楽にたとえれば、調号の表示ないようなものでしょう。ビザンティン音楽の調（エコス）の表示は、その楽節を正しく演奏できるための調号の役割を果たします。

ロシア教会の無譜表の奉神礼聖歌本、特に16～17世紀のものには、ひとつの歌の中で調が変化したり異なる調で交互に歌われるスティヒラがあります。同様のものはギリシアの聖歌本にもあって、調の変化の数によって、オクタイホン（ὀκτάηχον; осмогласникъ １－５－２－６－３－７－４－８－１の順、または１－２－３－４－５－６－７－８－１の順）、テトライホン（τετράηχον; четверогласникъ５－６－７－８の順）と呼ばれます。

ロシアのオスモグラシエ（八調）では、１調から８調まで数字順に並んでおり、各調に音楽的な関係はありませんが、ビザンティン聖歌やグレゴリオ聖歌では、正格、変格の組み合わせがあります。

| ビザンティン聖歌の体系 | グレゴリオ聖歌の体系 |
|---|---|
| （旋法）１調（ηχ. α΄）正格 | ドリアン（正格） |
| （旋法）２調（ηχ. β΄）正格 | ヒポ・ドリアン（変格） |
| （旋法）３調（ηχ. γ΄）正格 | フリギアン（正格） |
| （旋法）４調（ηχ. δ΄）正格 | ヒポ・フリギアン（変格） |
| （旋法）５調（ηχ. πλ, α΄）１の変格 | リディアン（正格） |
| （旋法）６調（ηχ. πλ, β΄）２の変格 | ヒポ・リディアン（変格） |
| （旋法）７調（ηχ. πλ, γ΄）３の変格 | ミクソィディアン（正格） |
| （旋法）８調（ηχ. πλ, δ΄）４の変格 | ヒポ・ミクソリディアン(変格) |

正格と変格の組み合わせは、ビザンティン聖歌では１と５、２と６、３と７、４と８となるのに、グレゴリオ聖歌の体系では１と２、３と４....です。ビザンティンでは５調６調８調は数字ではなく、１の変格（πλάγιος πρώτου）、２の変格（πλάγιος δετέρου）、４の変格（πλάγιος τετάρτου）と呼ばれる。７調だけは例外で、３の変格ではなくπλάγιος βαρύς（重い調）と示されます。

ロシアでは正格変格ではなく、単にグラス（調）が１から８の数字で表されます。古代ロシアの音楽史料にも７調は数字で表されていますが、重い調гласъ тяжькъと記されている例も一例あります。

ロシアの八調システムにおける正格と変格の関係については現在のところ否定も肯定もされていません。ロシア聖歌の初期段階においては正格変格の音楽的相互関係が存在したが、時代を経るにつれて次第に曖昧になり、今日では正格変格には共通の旋律パターンがあるという程度のものになったと考えられています。

**ホームページのご案内**

**○「なごや聖歌だより」のホームページ**
*http://www.orthodox-jp.com/music*
なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

**○　東方正教会の聖歌**　*http://www.orthodox-jp.com/maria*
詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

**○　正教会奉神礼研究**　*Liturgia*
*http://www.orthodox-jp.com/liturgy*　奉神礼や聖歌の実践資料

監修:ゲオルギイ松島雄一　編集:マリア松島純子